【外国語科】

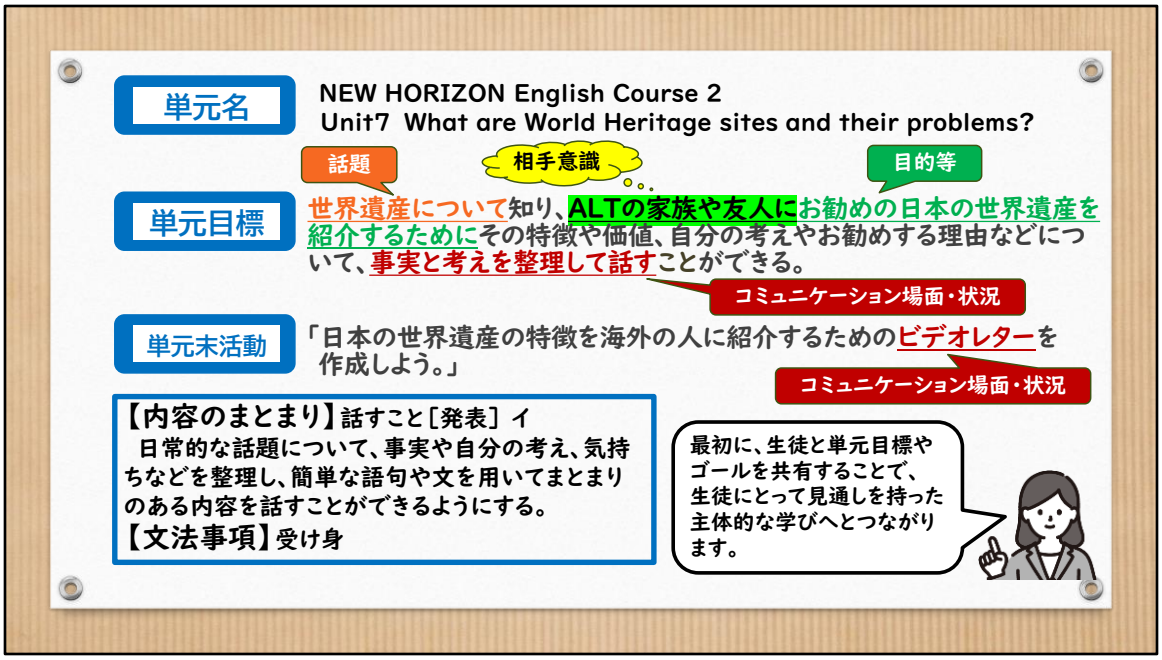
中学校2年生　授業モデル

～個別最適な学びと協働的な学びの往還及び一体化の場面～

東葛飾教育事務所　指導室

参考：
令和5年度「主体的・対話的で深い学びの充実に資するデジタル教科書をはじめとするICT機器等を活用した効果的な指導に関する実証事業」実践事例集（概要版）
https://www.mext.go.jp/content/20240621-mxt_kyokasyo01-000035395_2.pdf

個別最適な学びと協働的な学びは、主体的・対話的で深い学びへの実現に向けた手段の一つです。
中学校外国語科の授業で、個別最適な学びと協働的な学びの実践のヒントとして御覧ください。



New Horizon English Course 2の教材で出てくる単元です。世界遺産について知り、また世界遺産にまつわる問題点について取り上げています。この単元末活動では、日本の世界遺産の特徴を海外の人に紹介するためにビデオレターを作成しよう」としました。この単元でどのように個別最適な学びと協働的な学びを取り入れていくか、例をあげていきます。

単元の目標は話すこと【発表】イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。としました。

学習指導要領に書かれていることを具体的なコミュニケーション場面や状況等に落とし込み、また、何について / 誰に / 何をするために / 話す[発表]のか、子供と共有し、学習の見通しをもたせることが大事です。

評価規準（例）

目的等

知識・技能（例）	思考・判断・表現（例）	主体的に学習に取り組む態度（例）
＜知識＞ 受け身を用いた文の構造を理解している。 ＜技能＞ 世界遺産について、事実や自分の考えなどを整理し、受け身などの簡単な語句や文を用いて話す技能を身に付けている。	ALTの家族や友人にお勧めの日本の世界遺産を紹介するために、世界遺産について、事実や自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話している。	ALTの家族や友人にお勧めの日本の世界遺産を紹介するために、世界遺産について、事実や自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。

言語材料

話題

内容

言語材料

この単元における評価規準はご覧のとおりです。

ルーブリック評価例

パフォーマンステスト(9/9時)

8点以上:A　5点以上:B　4点未満:C

評価項目	3点	2点	1点	0点
知識・技能 (English)	大部分で発音やイントネーション・文法は正確で、語彙や文法表現を適切に使用している。	時々発音やイントネーション・文法に多少の誤りがあるものの、コミュニケーションに支障はない。	時々発音やイントネーション・文法に誤りがあり、コミュニケーションに支障をきたすことがある。	発音やイントネーション・文法に誤りが多く、コミュニケーションに支障がある。 発話量が著しく少ない。
知識・技能 (Delivery)	声量は十分で相手を意識したトーンで聞きやすい。 内容を暗記していて、アイコンタクトを常にとり、ビジュアル・エイドを効果的に使用しながらで話している。	声量は十分で聞き取れる。 アイコンタクトを大部分でとり、ビジュアル・エイドを使用しながら話している。	声量は不十分で、聞き取りにくい時がある。 アイコンタクトはとっていない時が多く、話す姿勢が不適切な場面がみられる。 ビジュアル・エイドはほとんど使用していない。	声量は不十分で聞こえない。 アイコンタクトをとっていない。 姿勢が不適切である。 ビジュアル・エイドを使用していない。
思・判・表 (Content)	日本の世界遺産に関する情報が豊富であり、世界遺産の特徴や歴史が紹介されている。 世界遺産をおすすめする根拠や自分の考えを交えて提案されていて、ALTの家族や友人が行ってみたいと思わせる説得力がある。	日本の世界遺産に関する情報が十分であり、世界遺産の特徴が紹介されている。 世界遺産をおすすめする根拠が示されていて、ALTの家族や友人が行ってみたいと思わせる内容である。	情報量は不十分であり、世界遺産の特徴についての紹介が不足している。 世界遺産に行ってみたいと思わせるような根拠は示されていない。	情報量は不十分であり、世界遺産の紹介がほとんどされていない。発表時間が著しく短い。 世界遺産に行ってみたいとは感じられない。
思・判・表 (Q&A)	質問に対して応答が適切かつ表現が豊かである。	質問に対して応答が適切である。	質問に対して応答が適切ではない。	質問に対して答えられない。

単元末に行われるパフォーマンステストにおけるルーブリック表の例です。

授業展開 例（8/9時）

単元末に実施する発表に対し、ペア（or グループ）内でアドバイスし合い、表現・内容面で改善することを目指す。本時では、アドバイスを録音・共有し、改善する方法を考える。

場面	活動	内容
導入 個別 ⇔ 協働	・実演 ・復習	・本時の発表及びアドバイスする際の視点について、授業者がALT（生徒）と実演 ・発表について参考となる教科書本文を、デジタル教科書の各種機能を用いて音読
展開1 協働	・発表 （1回目） ・アドバイス ・中間指導	・グループ（ペア）で発表（ビデオレター） ・相手の発表が良くなるアドバイスをグループ（ペア）で出し合い、学習支援ソフトで録音・共有 ・中間指導にて、良いアドバイスを出し合っているグループの例を挙げながら改善方法について学級全体で共有
展開2 個別 ⇔ 協働	・再考	・グループ（ペア）からのアドバイスやデジタル教科書の音声を聞き直し、発表内容の改善（修正）（自分の発表の参考になる表現は事前にデジタル教科書から収集）
展開3 協働	・発表 （2回目）	・再度グループで発表（ビデオレター）、互いにアドバイス ・授業者（ALT）は机間指導や中間指導（授業者）を適宜行いながら学習状況を把握 ・修正を加えた部分はその箇所が分かるように色を付けるなどして提出
まとめ 個別 ⇔ 協働	ふり返り	・振り返りシートに記入 → 全体で共有 記述内容（例）できるようになったこと　（例）パフォーマンステストで活かしたいこと （例）友達（授業者やALT）の助言から学んだこと

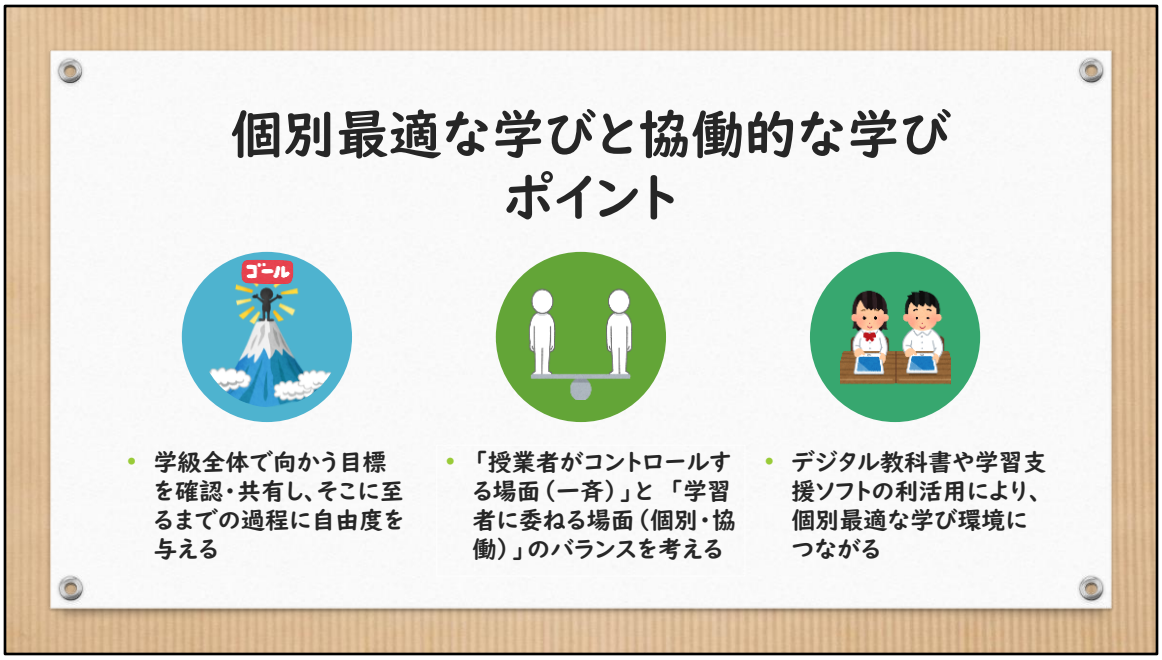
7時間目または8時間目の授業展開例です。単元末に実施する発表に向けて表現・内容面で改善することを目指します。本時の展開例では、学習支援ソフトを活用し、アドバイスをし合ったことを録音、全体で共有することで改善方法をともに考える時間となっています。

生徒による振り返り　ルーブリック(例)

生徒視点 （教師視点）	A たいへんよい （たいへん満足できる）	B よい （おおむね満足できる）	C もう少し （努力を要する）
主体的に学習に取り組む態度	（聞き手） 相手の発表を見聞きして、表現及び内容について良かった点をそれぞれ伝えている。また、改善点について必要に応じて質問をして確認するなど相手に配慮しながら伝えている。 （話し手） 相手からのアドバイスについて、必要に応じてその内容を確認または質問をしながら受け取り、次の練習に役立てようとしている。	（聞き手） 相手の発表を見聞きして、表現または内容について良かった点を伝えている。また、改善点について伝えている。 （話し手） 相手からのアドバイスについて、次の練習に役立てようとしている。	（聞き手） 相手の発表を見聞きして感想を言っている。 （話し手） 相手からのアドバイスを素直に受け取ることができず、次の練習に役立っていない。

※　生徒の主体的な学びにつなげるルーブリック　ー　振り返りの視点になる。

授業の最後に振り返りの時間をとります。その際に、ご覧のルーブリック表を示すことで、生徒の主体的な学びにつなげます。このルーブリック表はあくまでも生徒自身の振り返りの視点を与えたもので、本時の目標に対する教師の見取り評価ではありません。



個別最適な学びと協働的な学びにするためのポイントをまとめました。ご覧の3つです。